



日本－ノルディック公開シンポジウム：
大学評価をどう活かすか
2006年9月28日・東京

「北欧の成功」－フィンランドの事例

Ossi Tuomi
Secretary General
FINHEEC
www.kka.fi

Korkeakoulujen arviointineuvosto – Rådet för utvärdering av högskolorna – The Finnish Higher Education Evaluation Council (FINHEEC)



FINHEECが行う評価

- 機関別評価(質の監査)
- プログラム別評価
- 教育方針とその他のテーマ別評価
- COEに重点を置いた評価(優良な高等教育機関には教育省から追加資金を助成)
- 専門コースの評価と認定

Korkeakoulujen arviointineuvosto – Rådet för utvärdering av högskolorna – The Finnish Higher Education Evaluation Council (FINHEEC)

2



FINHEECの運営の前提である 向上指向型評価(1)

- FINHEECが計画する評価の目的は、高等教育機関の教育の改善に向けた努力を支援することである(向上指向型評価)
- 高等教育機関が自らの活動を展開する上で活用できる情報を提供することを目標とする
- もう一つの目標は、高等教育機関の評価で明らかになったグッドプラクティスを、共有し普及させることである
- 最低基準を確保するものではなく、ランキングでもない
- 報告書の公表を通じ、教育省やステークホルダーに対し高等教育機関の質と質保証に関する情報を提供する
- 報告書には将来の発展に必要な提言が盛り込まれる
- 高等教育機関には評価結果を活用したり応用する最終的な責任がある



FINHEEC運営の前提である 向上指向型評価(2)

- 高等教育機関との対話を基本とする
- 高等教育機関は評価方針および評価基準に対する、発言権を持つ
- 評価に対する高等教育機関の信頼を確保する
- 高等教育機関の自律性を尊重する
- ピアレビュー(高等教育機関および社会人から選ばれた外部評価者)
- 学生の関与



FINHEECの監査モデル

- 監査マニュアルに記載された監査モデル
http://www.kka.fi/pdf/julkaisut/KKA_406.pdf
 - フィンランドの高等教育機関の伝統に適合
 - 高等教育機関の自律性を尊重
 - 向上指向型の原則に適合
 - 国際基準に照らして妥当性と信頼性をもつ
 - 欧州の発展とその多様な特質によって課された要件を満たす
- 高等教育機関が、質保証の向上と方法の選択・実施に対する責任を自ら負うことを大前提とする
- とはいえ、高等教育機関の質保証は、監査マニュアルに定められた一定の要件を満たしていなければならない



評価の効果(1)

- フォローアップ評価、アンケート、フォローアップセミナー
- 教育省は目標と成果に関する高等教育機関との話し合いにおいて、評価報告書を活用
- 高等教育機関の戦略的取り組み、教職員会合、教職員および学生のための合同セミナーで評価結果を活用
- 提言は概して有用という結果
- 効果の証明は困難:
 - 他の要素や要因の介在
 - FINHEECは高等教育機関の構造的発展、学部、学科、学位プログラムの改廃に関して決定権を持たない。



評価の効果(2) 例

COE(指導と学習、地域的影響、成人教育)

- 教員の教授スキルの向上
- 体系的な教員研修
- 高等教育機関における教授法向上のためのユニット
- 地位
- 資金追加
- 地域発展への関心の増大
- 生涯学習への注目
- 質の監査:教育的政策および欧州基準実施のためのツール
- →前向きでやりがいの持てるガイダンス方法が有効である